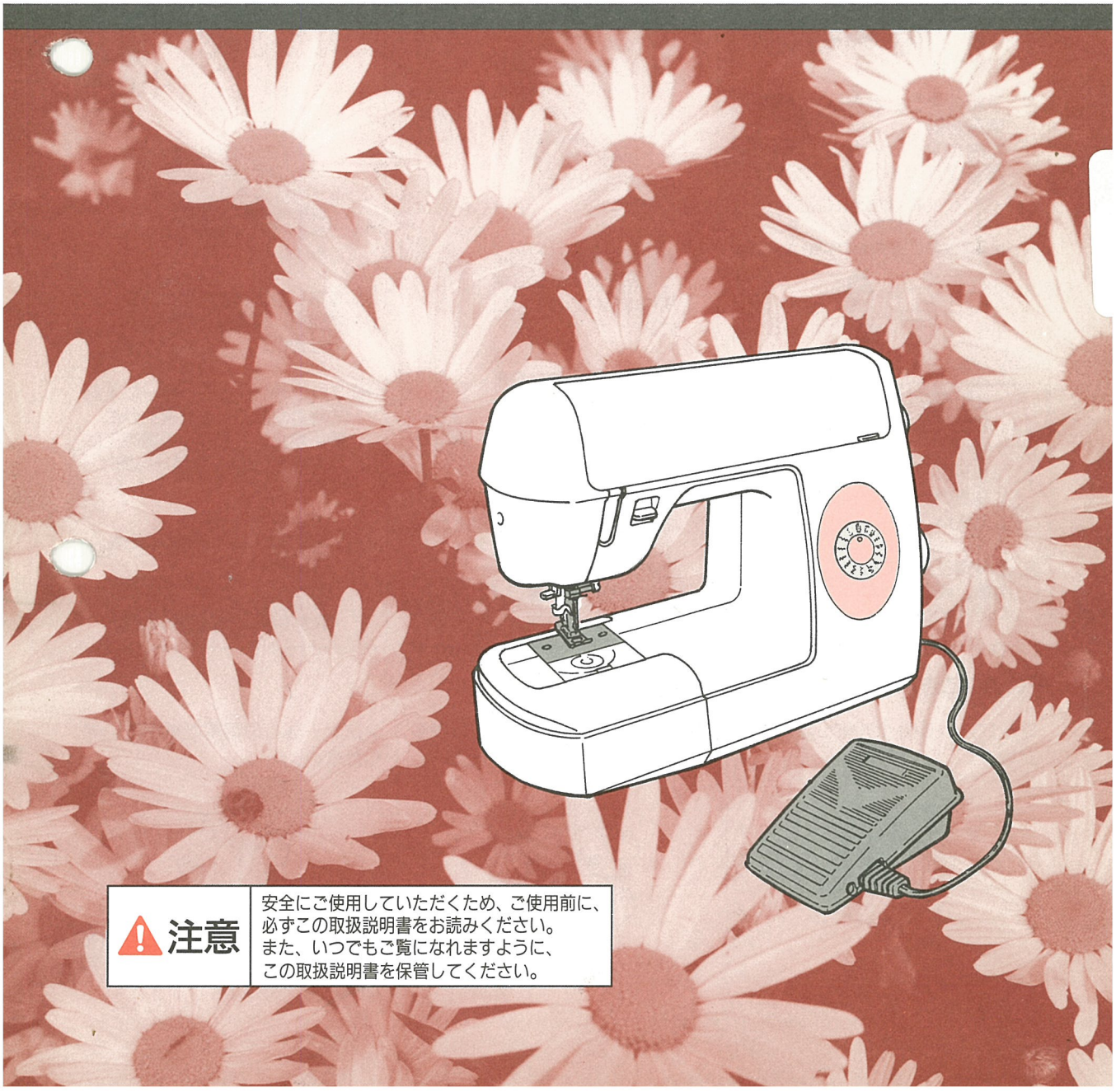
JUKI

Catty

キャティー
HZL-60

取扱説明書



⚠注意

安全にご使用していただくため、ご使用前に、
必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧になれますように、
この取扱説明書を保管してください。

お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
このミシンは直線ぬいを始めとしてホームソーイングに適した数々の模様ぬいが内蔵されています。正しくミシンをご使用していただくためにどうぞこの「取扱説明書」をよくお読みいただきホームソーイングのパートナーとして末長くご愛用してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、下記のことがらは必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY


この表示は禁止のマークです。

警告　このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 下記のようなときは電源を切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
   - ミシンのそばを離れるとき。
   - ミシンをご使用になったあと。
   - ミシンのご使用中に停電したとき。

注意　このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。
2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。

3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。
6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。
7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。

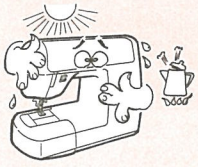
8. 下記のことを行うときは、電源を切ってください。
   - 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
   - 下糸、上糸をセットするとき。
   - ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
   - 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。

9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
    - 正常に作動しないとき。
    - 落下などにより破損したとき。
    - 水に濡れたとき。
    - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
    - 異常な臭い、音がするとき。

その他のご注意

ミシン油以外の油は使わないでください。

直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



シンナーなどの溶剤で拭かないでください。

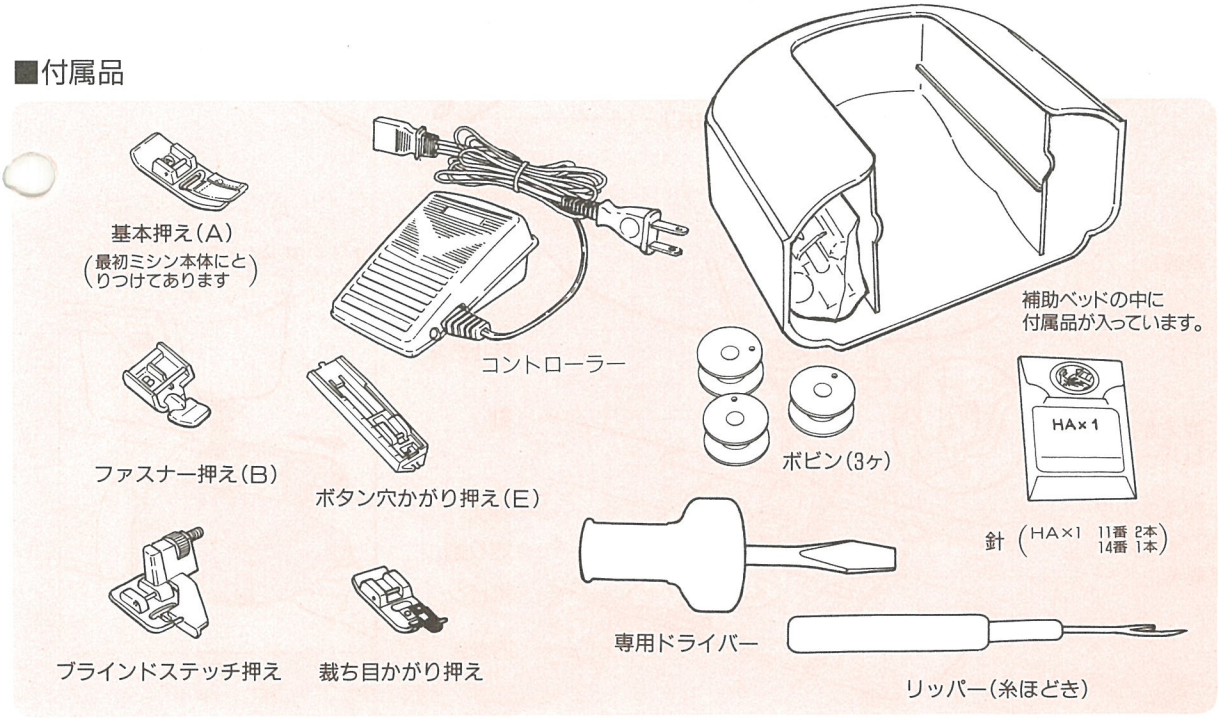
よごれをおとすときは柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、良く拭き取ってください。

もくじ

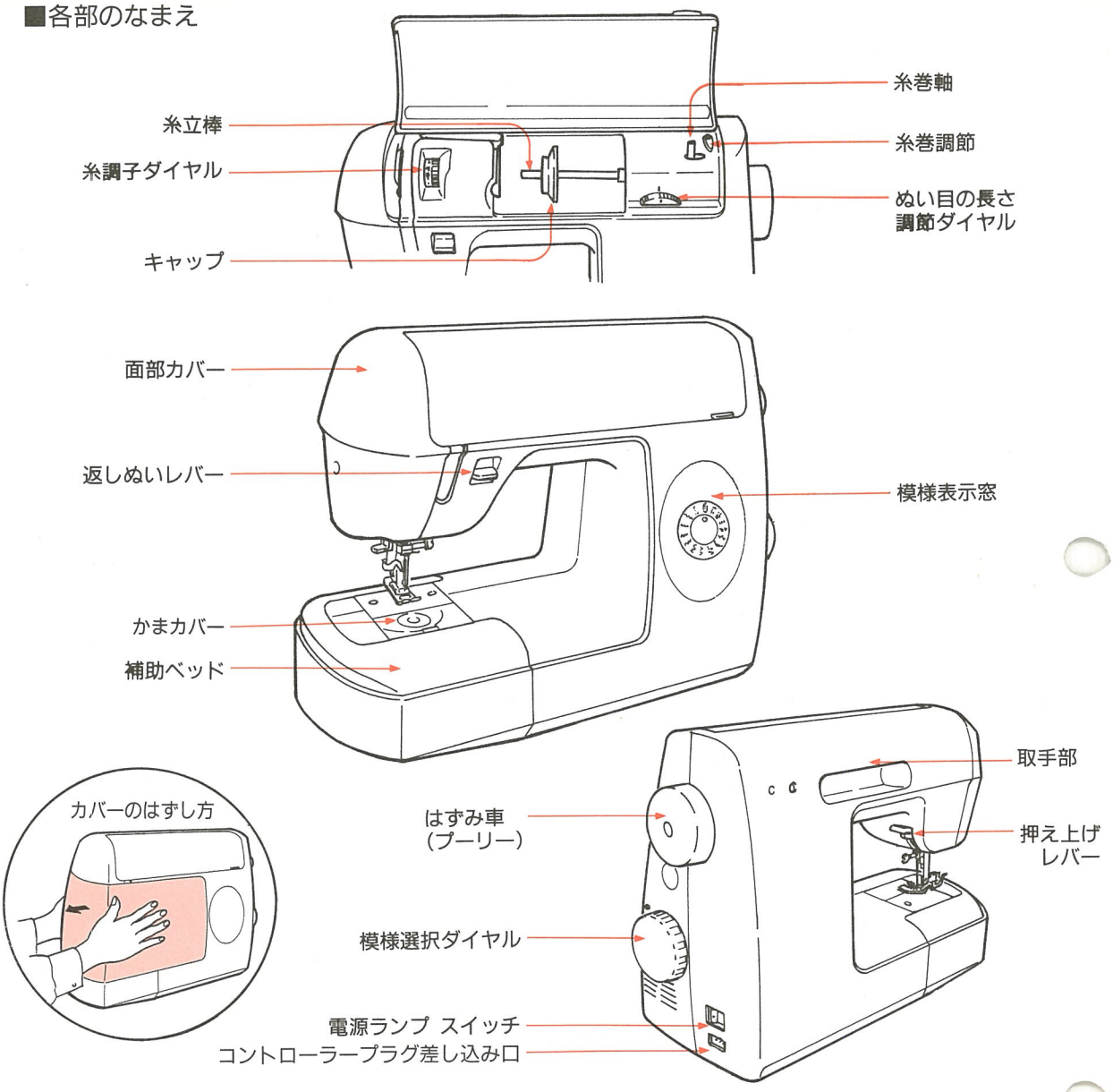
■仕様表

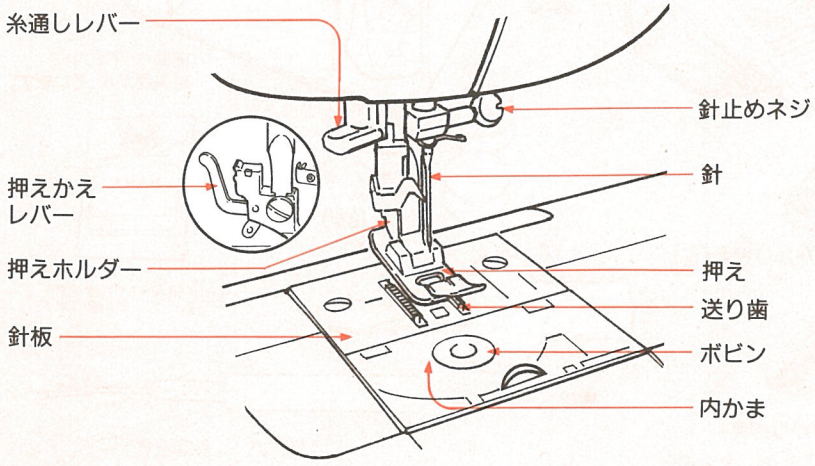
項　目	仕　様
本体寸法	幅384×高さ292×奥行166(mm)
重量	6.5kg
定格電圧/消費電力	100V/70W　50/60Hz
ランプ消費電力	100V/15W

■付属品

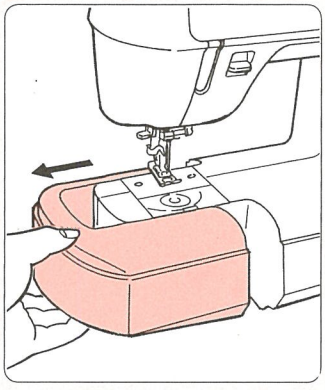


■各部のなまえ





フリーアーム



■主な はたらき

模様の種類

左基線	中基線	直線ぬい伸縮地用	まつりぬい	まつりぬい伸縮地用
直線ぬい				

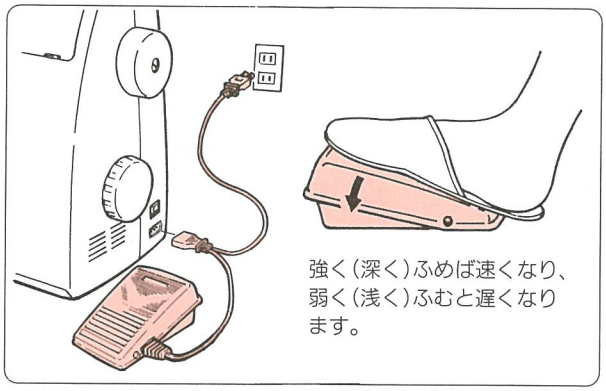
(小)	(中)	(大)	三点ジグザグ	ぬいスカラップ
ぬいジグザグ				

かがり裁ち目	バッチワーク	伸縮強化ぬい	穴かがりボタン


は

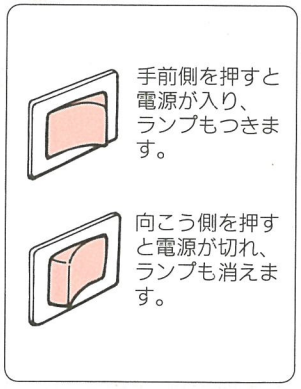
伸縮素材(ニット、ジャージー地など)に適したぬい目(模様)です。

コントローラー

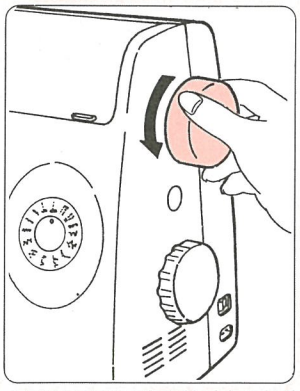


コントローラーのプラグをミシンのプラグさし込み口にさし込み、一方のプラグを室内コンセントにさし込みます。

電源ランプ スイッチ



はずみ車

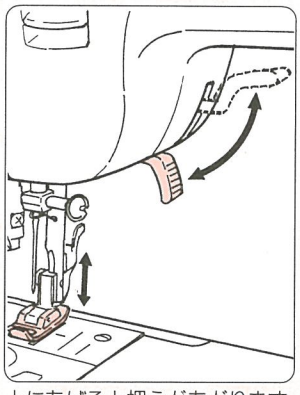


はずみ車を回すと針が上下します。
はずみ車は、必ず手前に回してください。

模様選択ダイヤルと指標

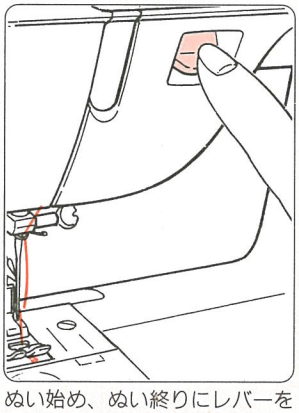
模様選択ダイヤルを回し、指標に合わせた模様がぬえます。

押え上げレバー



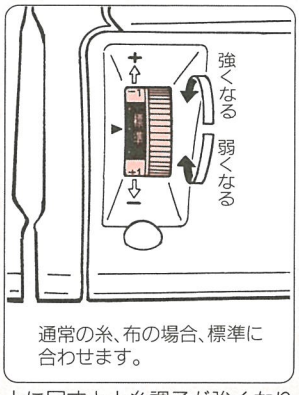
上にあげると押えがあがります。
下へさげると押えはさがります。

返しぬいレバー



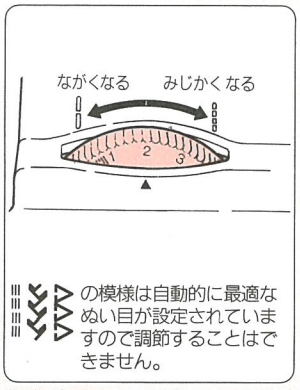
ぬい始め、ぬい終りにレバーを押すと返しぬいができます。

糸調子ダイヤル



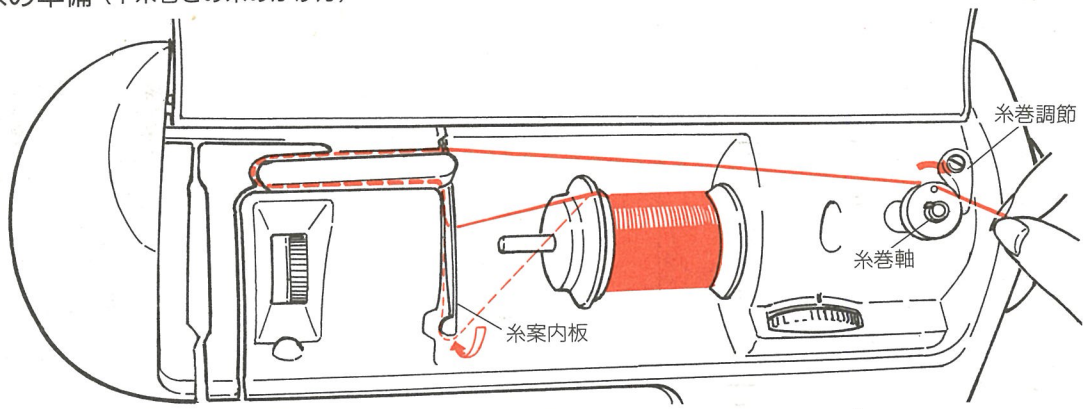
上に回すと上糸調子が強くなり下に回すと弱くなります。

ぬい目の長さ調節ダイヤル

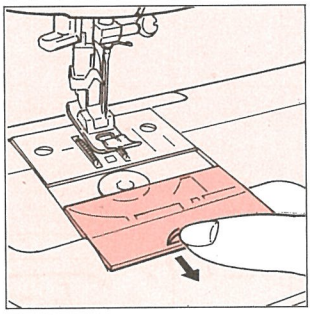


数字が小さくなるとこまかく、大きくなると荒くなります。

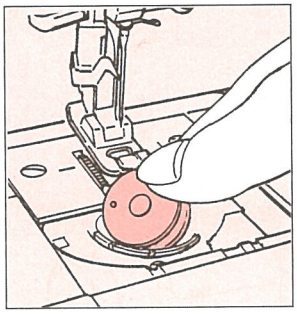
■下糸の準備（下糸巻きの糸のかけ方）



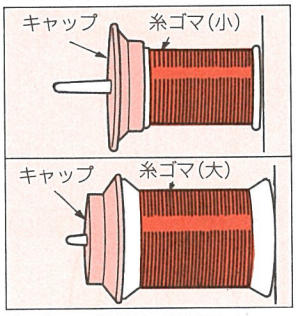
1 かまカバーを開けます



2 ボビンをとり出します

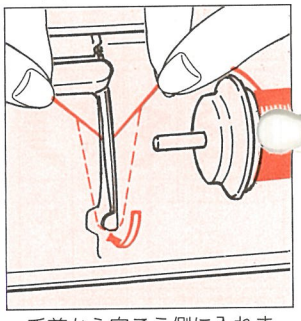


3 糸ゴマをセットします



糸ゴマの外周に応じてキャップの裏表をかえてとりつけします。

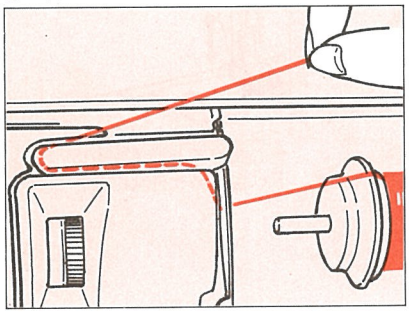
4 糸案内板に入れます



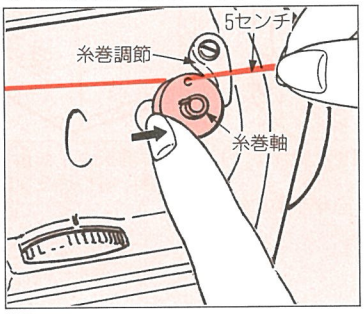
手前から向こう側に入れます。

⚠注意 ボビンを出し入れするときは必ず電源スイッチを切って下さい。

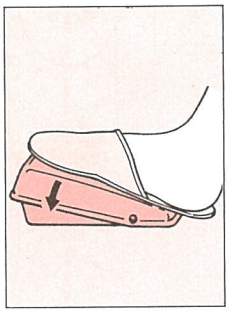
5 ミゾを通してUターンさせます



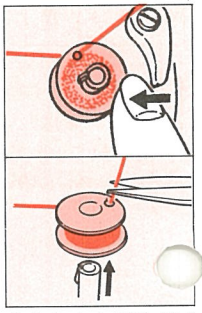
6 ボビンを糸巻軸にセットし糸巻調節へ押しつけます



7 スタートさせます

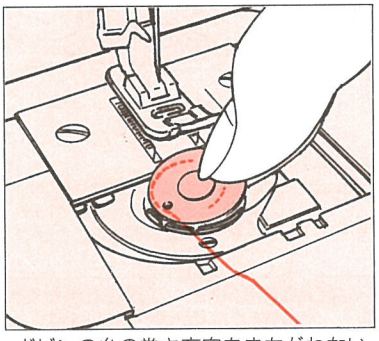


8 ボビンを左側へもどします



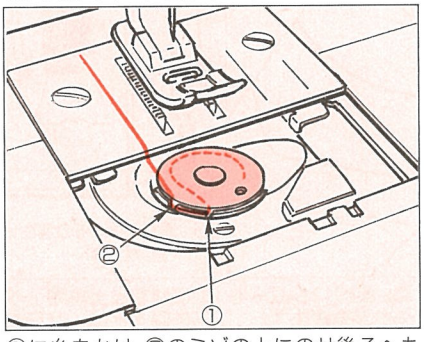
余分な糸を切りボビンをとり出します。

9 内かまに入れます



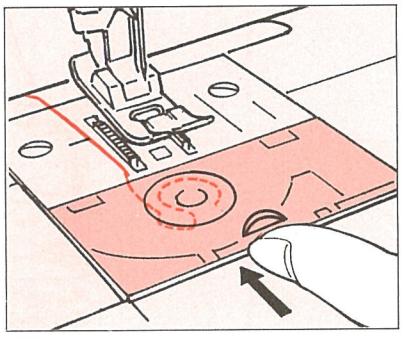
ボビンの糸の巻き方向をまちがわないように！

10 内かまに糸をかけます



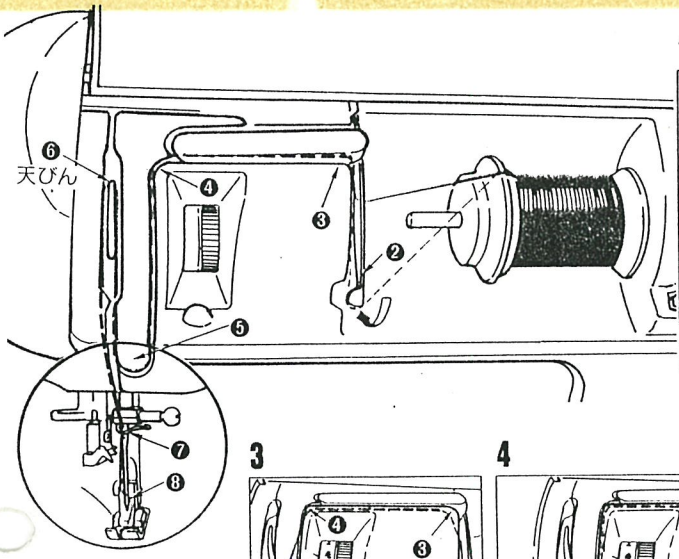
①に糸をかけ ②のミゾの上にのせ後ろへもって行きます。

11 かまカバーを閉(と)じます

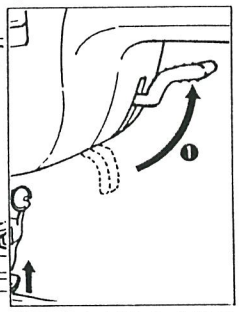


■上糸のかけ方

⚠注意 糸かけや糸を通すときは必ず電源スイッチを切ってください。

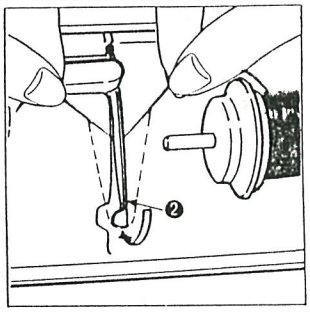


1 最初に押え上げレバーをあげます



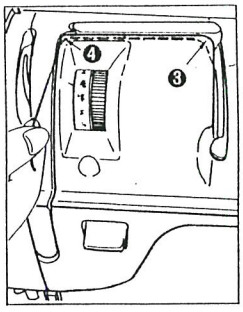
押えをあげると糸調子皿が開きます。

2 糸案内板にかけます

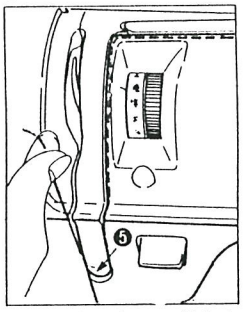


手前から向こう側へ入れます。

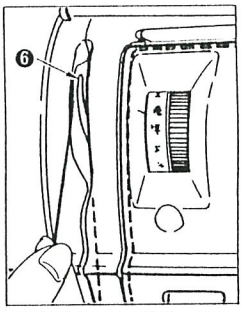
3



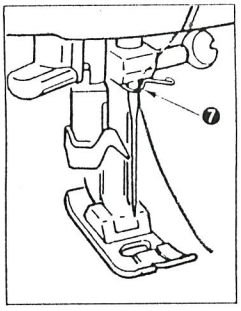
4



5



6

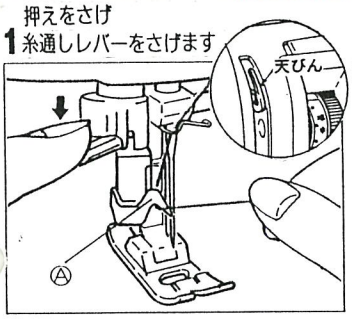


❸❹から下へおろします。❺から上にもって行きます。❻天びんにかけて、下へもって行きます。❼は右側からかけます。

針自動糸通し

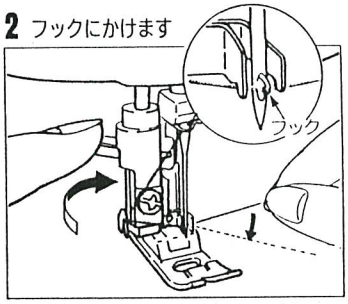
……針糸通しをするとき、天びんを一番上にあげてください。

1 押えをさげ糸通しレバーをさげます



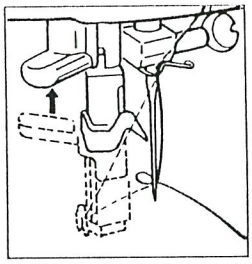
糸通しレバーを下げてⒶに糸をかけます。

2 フックにかけます



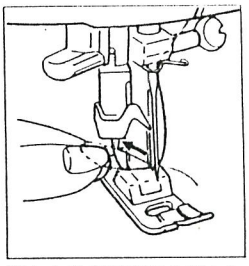
糸通しレバーをいっぱいまで下げてから矢印の方向に止まるまで回転させ糸をフックの下へ持っていきます。

3 糸通しレバーをあげます



糸通しレバーを戻すと、糸は針穴に通ります。

4 糸をひき出します

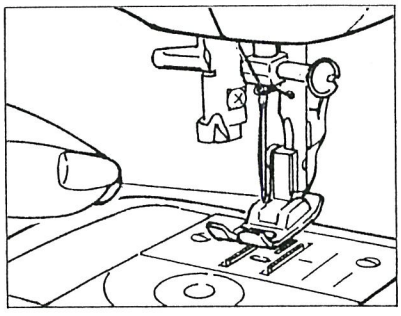


通した糸を針穴から10センチぐらい引き出します。

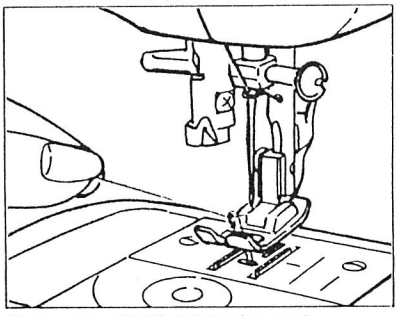
下糸の引きあげ方

※針糸通しをするとき、天びんを一番上にあげないと、ぬい始めに通した糸が抜けることがあります。

1 上糸を軽くもちます

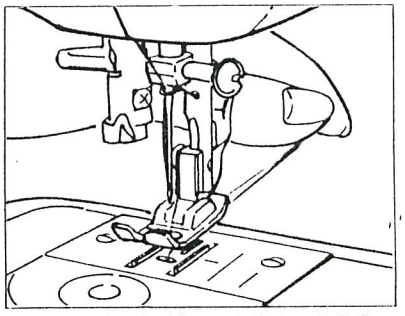


2 はずみ車を手前に回します



針が上下して下糸を引き出します。

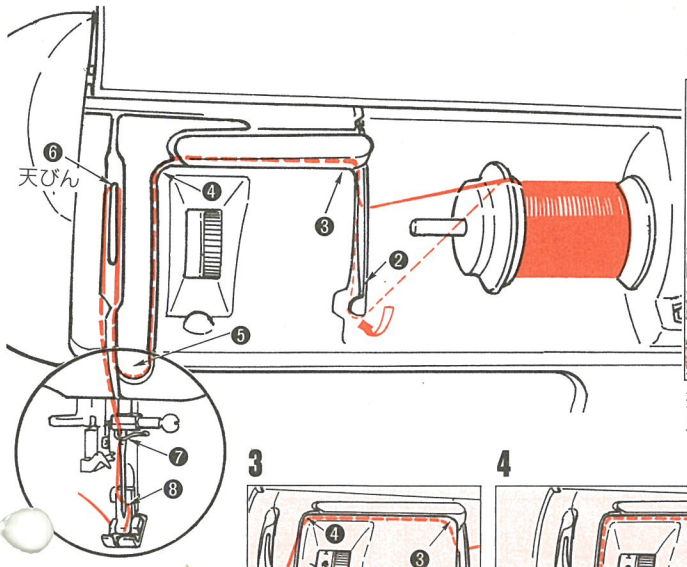
3 上・下糸を10センチ出します



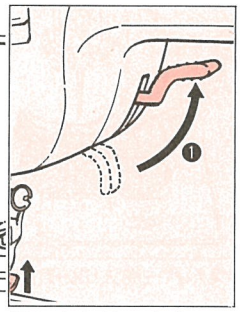
上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

■上糸のかけ方

⚠注意 糸かけや糸を通すときは必ず電源スイッチを切ってください。

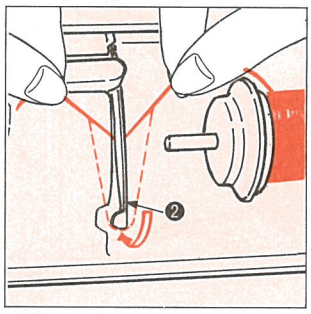


1 最初に押え上げレバーをあげます



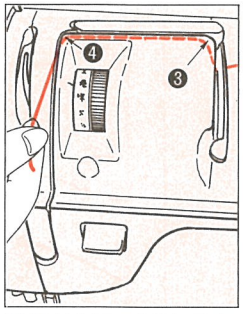
押えをあげると糸調子皿が開きます。

2 糸案内板にかけます



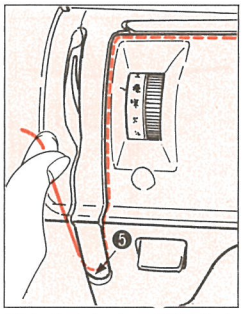
手前から向こう側へ入れます。

3



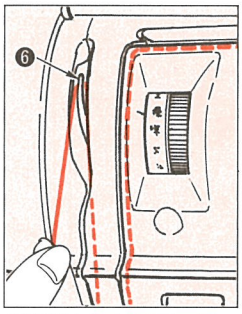
❸❹から下へおろします。

4



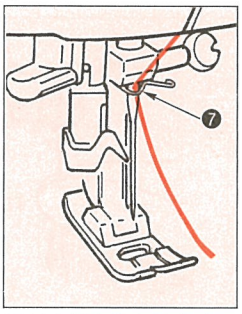
❺から上にもって行きます。

5



❻天びんにかけて、下へもって行きます。

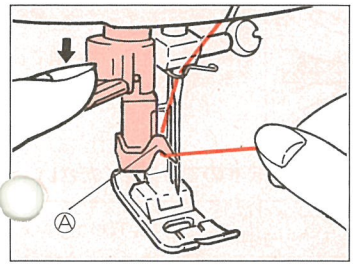
6



❼は右側からかけます。

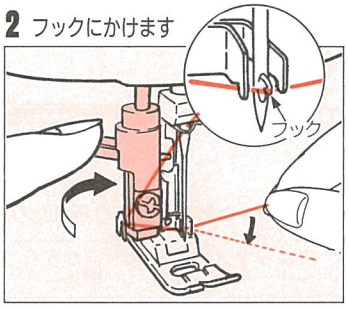
針自動糸通し

1 押えをさげ糸通しレバーをさげます



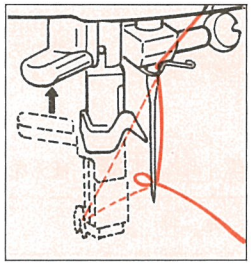
糸通しレバーを下げてⒶに糸をかけます。

2 フックにかけます



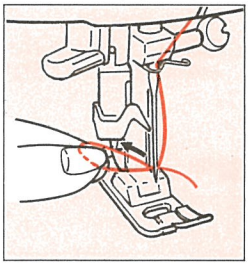
糸通しレバーをいっぱいまで下げてから矢印の方向に止まるまで回転させ糸をフックの下へ持っていきます。

3 糸通しレバーをあげます



糸通しレバーを戻すと、糸は針穴に通ります。

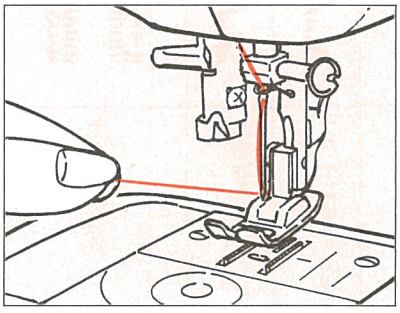
4 糸をひき出します



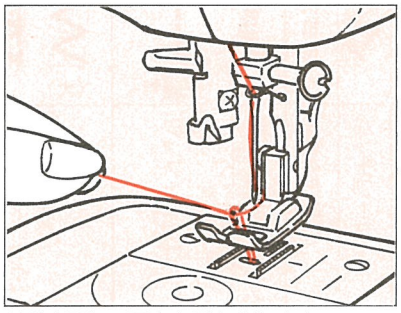
通した糸を針穴から10センチぐらい引き出します。

下糸の引きあげ方

1 上糸を軽くもちます

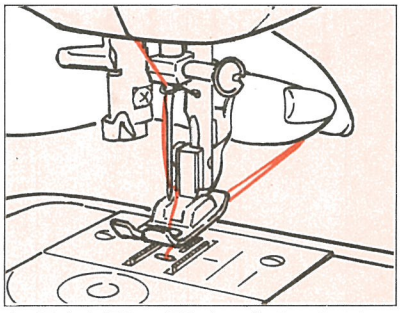


2 はずみ車を手前に回します



針が上下して下糸を引き出します。

3 上・下糸を10センチ出します

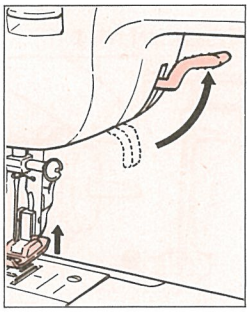


上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

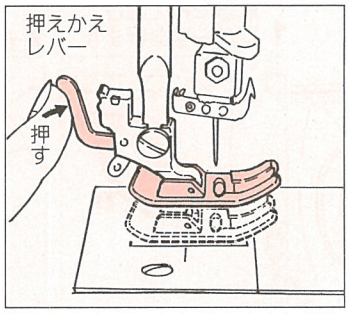
■押えのとりかえ方

⚠注意 押えや針を交換するときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 押えを上げます

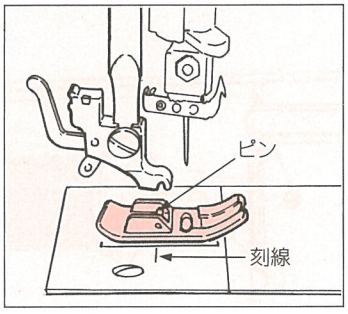


2 押えをはずします

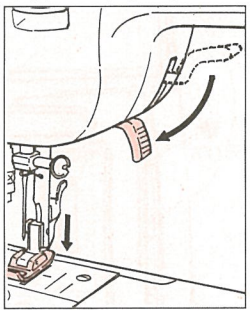


押えかえレバーを矢印の方向に押します。

3 押えのピンと刻線を合わせます



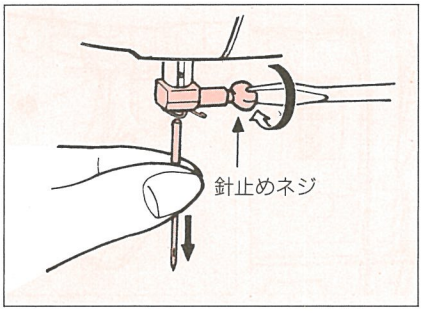
4 押えを下げます



押え上げレバーを下げると押えはセットされます。

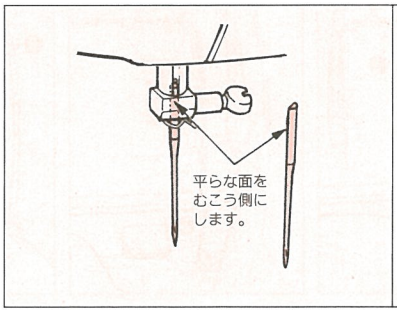
■針について

1 針の はずし方

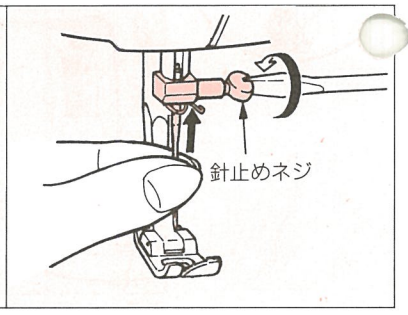


針を最上部にあげ針止めネジをゆるめます。

2 針の とりつけ方



針の平らな面をむこう側にして上方へ当るまで差しこみます。



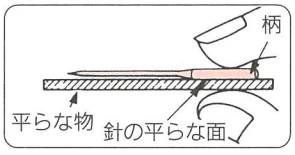
ドライバーで針止めネジをかたくしめます。

● 針の選び方

針をお求めの際は
家庭用ミシン針のHA×1または
HA×ISP(ニット針)を指定します。

太さの番号表示
数字が大きくなると
針が太くなります。

● 針の調べ方



すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。
針先が曲ったり、つぶれているものは使わないでください。

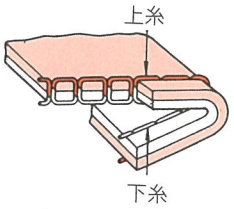
■押えと各模様の関係

⚠注意 押えをまちがえますと針がぶつかり折れたり曲ったりしますのでご注意ください。

押え	基本押え								ファスナー押え	裁ち目かがり押え	ブラインドステッチ押え		ボタン穴かがり押え
	押え記号A								押え記号B				押え記号E
模様	左基線	中基線		(小)(中)(大)					左基線	(大)			
主な用途	直線ぬい		伸縮地用直線ぬい	ジグザグぬい	三点ジグザグ裁ち目かがり	パッチワーク	伸縮強化ぬい	模様ぬい(スカラップ)	ファスナーつけ	(オーバーロック)裁ち目かがり	(まつりぬい)ブラインドステッチ	ステッチ伸縮地用ブラインド	ボタン穴かがり

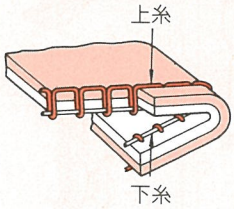
■糸調子の合わせ方

○ 正しい糸調子

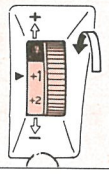


上糸と下糸のからみが布の中心にくるのが正しい糸調子です。

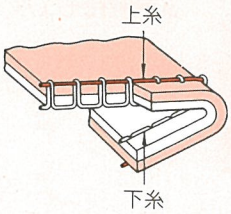
× 上糸の調子が弱いとき



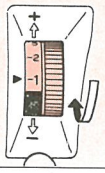
糸調子ダイヤル目盛の数字を**大きく**します。



× 上糸の調子が強いとき



糸調子ダイヤル目盛の数字を**小さく**します。



■各模様の最適なぬい目の長さと調節範囲

模様	直線	伸縮地用直線	ジグザグ			ブラインド		三点ジグザグ	スーパー模様	スカラップ	ボタン穴かがり
							伸縮地用				
最適範囲	2〜2.5	2.5	1	1.4	2	2	1.5	1	自動	0.5	0.4〜0.6
調節可能範囲	0〜4	0〜2.5	0〜4			0〜4		0〜4	自動的に最適なぬい目の長さが設定されていますので調節できません。	0〜4	0〜4
調節例 (0.5〜4)	~	~ 0.5 2.5	~ ~ ~			~ ~		~		~	~ (0.2) (1)

※伸縮地用直線（ ）のぬい目の長さの最大は2.5です。

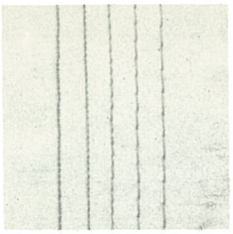
■布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方の目安

＊糸調子について……
ほとんどの普通地ぬいは 標準 の範囲でぬえるようにセットしています。
ジョーゼットやデニムなどの薄地、厚地は試しぬいをして糸調子を合せてください。

	布地	ミシン糸	ミシン針	ぬい目の長さ 直線ぬい	ぬい目の長さ ジグザグぬい	糸調子の目安
			HA×1			
薄地ぬい	ローン	綿ミシン糸 80〜100番	(9番)	1〜3	1〜4	
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番			
	トリコット	化繊ミシン糸 60〜100番	ニット針 11番			
	ウール・化繊布	絹ミシン糸 80番 化繊ミシン糸 60〜100番	11番			
普通地ぬい	普通木綿・化繊布	綿糸 50〜80番 化繊ミシン糸 50〜60番	11〜14番	1.5〜3	0.5〜4	
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50〜60番	ニット針 11番			
	一般ウール・化繊服地		11〜14番			
厚地ぬい	デニム	綿糸 30〜50番 化繊ミシン糸 30〜50番	14〜16番	2〜4	0.5〜4	
	ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50〜60番	11〜14番			
	コート地	絹ミシン糸 50番	11〜14番			

※ニット針（HA×1sp）は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

■直線ぬい



直線ぬいはぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。

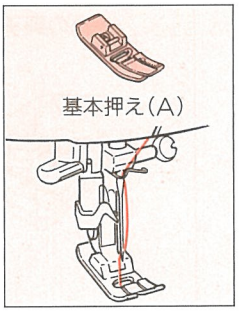
⚠注意

押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

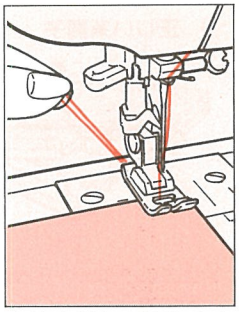
1 直線模様を選びます

3種類の直線ぬいから目的に合ったものをお選びください。

2 基本押え(A)をとりつけます

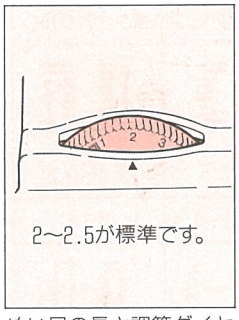


3 布地を入れ押えをさげます



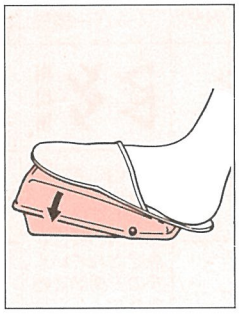
布地を押えの下におきぬい始める位置に針を落とします。上下糸をそろえて押えをさげます。

4 ぬい目の長さを決めます

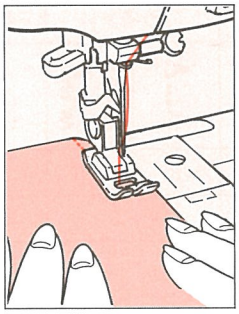


ぬい目の長さ調節ダイヤルを回します。

5 スタートさせます

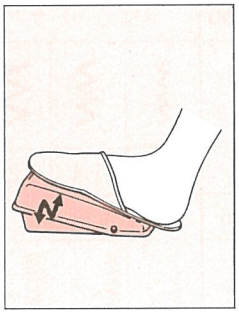


6 布地に軽く手をそえます

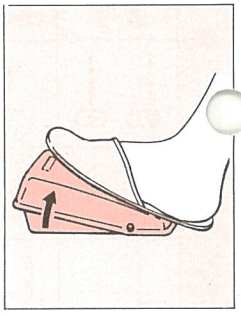


ぬっている間は布地をむりに引っぱらないようにします。

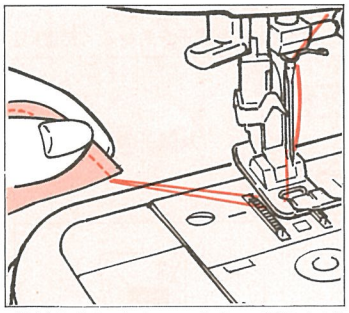
7 ぬい速度を調節します



8 ストップさせます

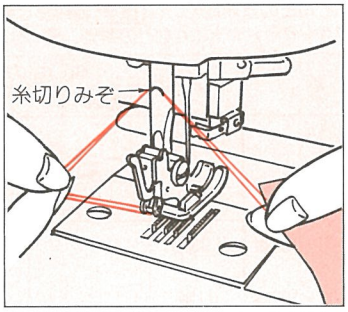


9 押えをあげて布地をとり出します



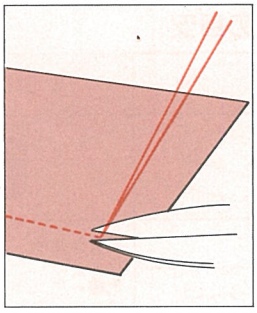
針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。

10 糸を切ります



上・下糸をそろえて10センチくらい引き出し押え棒の裏側の糸切りみぞで糸を切ります。

11 布地の裏で糸を結びます



布地の裏側に上糸を引き出し上糸と下糸を結び 結び目のきわで糸を切ります。

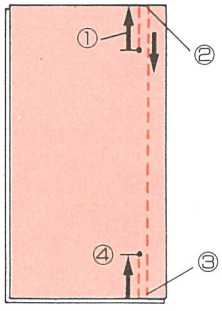
伸縮地用直線ぬいについて

ぬい目が伸縮しますのでニット、ジャージー地などの直線ぬいとして使用できます。

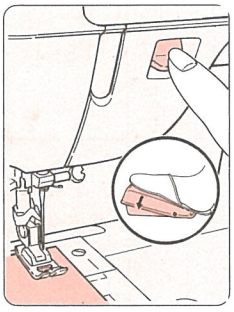
ぬい目の長さの最大は2.5です。

■返しぬい

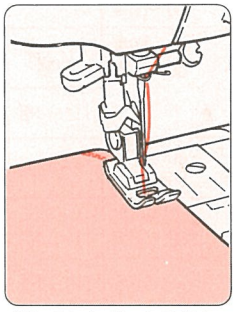
(ほつれ止め)



①返しぬいレバーを押しながらスタートさせます

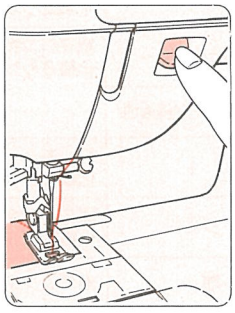


②指をはなすと直線ぬいをします

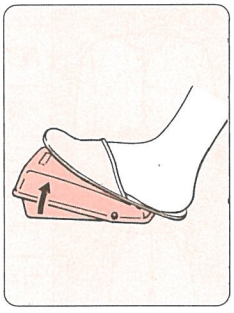


返しぬいレバーから指をはなすと直線ぬいになります。

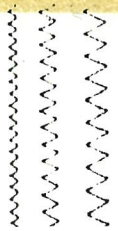
③返しぬいをします



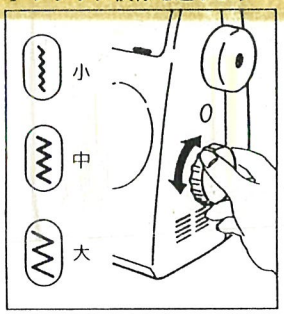
④ストップさせます



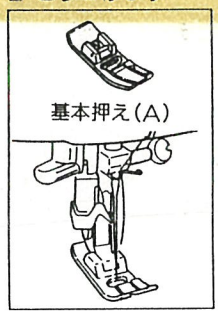
■ジグザグぬい



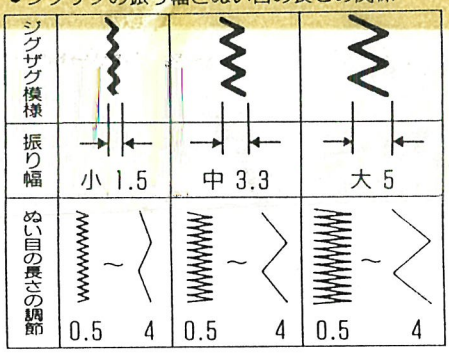
1 ジグザグ模様を選びます



2 基本押え(A)をとりつけます



●ジグザグの振り幅とぬい目の長さの関係



⚠注意

押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

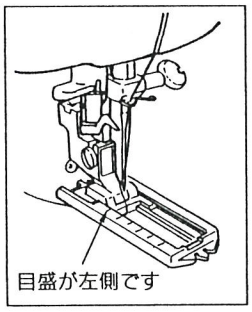
3種類のうち お好みの振り幅模様に合わせます。

■ボタン穴かがり

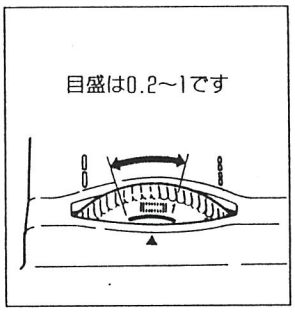
⚠注意

押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

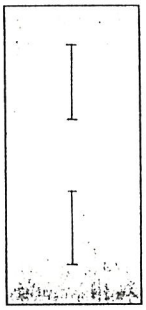
1 ボタン穴かがり押え(E)をとりつけます



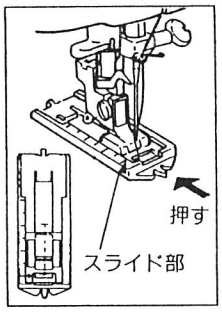
2 ぬい目の長さを合わせます



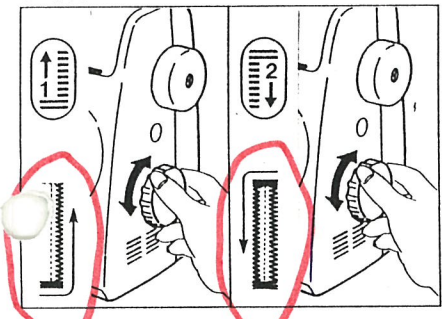
3 ボタン径を測り布地に印をつけます



4 スライド部を押して布地の印に合わせます



5 ボタン穴かがり模様を下記順序に選んでぬいます



追加

左右のぬい目の長さが合わないときの調整方法

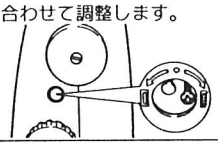
⚠注意

ぬい目を調整するときは電源スイッチを切ってください。

1.調整するときは

の模様を選びます。

2.はずみ車の下の調整穴のキャップをはずして、ぬい目の状態に合わせて調整します。



右側が粗(あら)すぎるとき

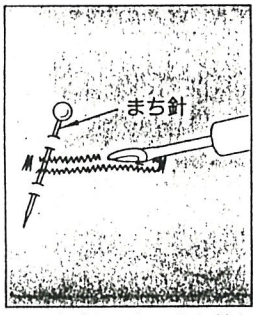
右側が細(こま)かすぎるとき

調整時のご注意

ぬい目を見ながら少しづつ(45°ぐらい)回して試しぬいをし、合せてください。回しすぎるとネジが外れたりトラブルの原因となりますのでご注意ください。

左側のぬい目を基準として右側のぬい目を調整します。

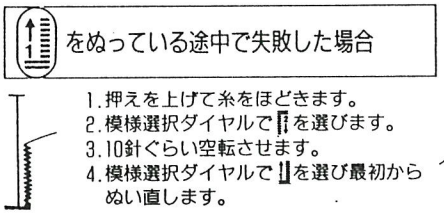
6 ぬい終ったらリッパーで穴をあけます



切りすぎないようまち針を使うと失敗しません。

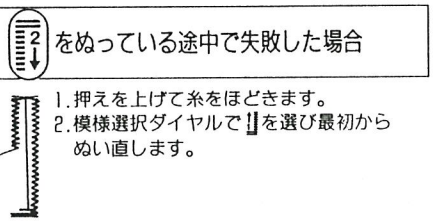
ボタン穴かがりを失敗したとき

——失敗した場所により操作がちがいます——



をぬっている途中で失敗した場合

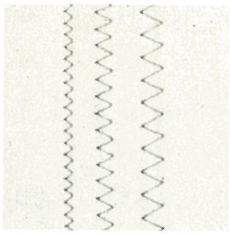
1.押えを上げて糸をほどきます。
2.模様選択ダイヤルで を選びます。
3.10針ぐらい空転させます。
4.模様選択ダイヤルで を選び最初からぬい直します。



をぬっている途中で失敗した場合

1.押えを上げて糸をほどきます。
2.模様選択ダイヤルで を選び最初からぬい直します。

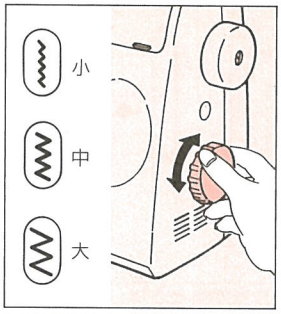
■ジグザグぬい



注意

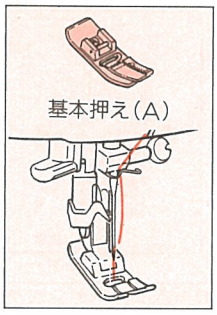
押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 ジグザグ模様を選びます

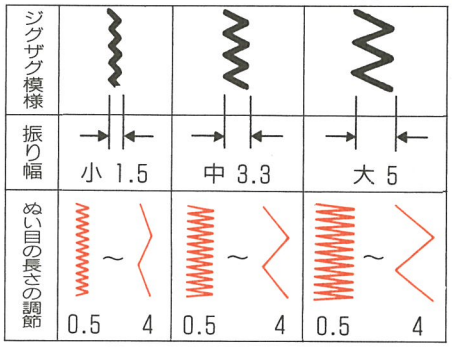


3種類のうち お好みの振り幅模様に合わせます。

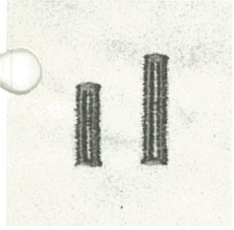
2 基本押え(A)をとりつけます



●ジグザグの振り幅とぬい目の長さの関係



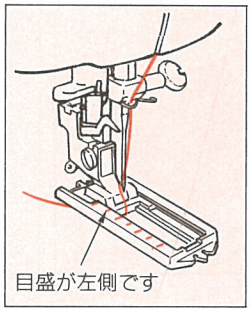
■ボタン穴かがり



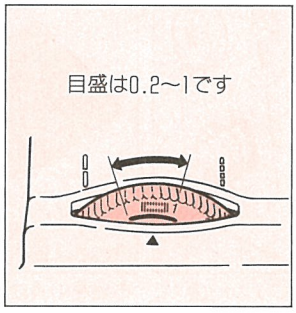
注意

押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

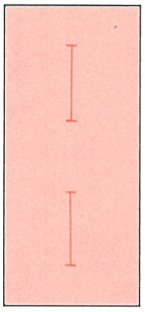
1 ボタン穴かがり押え(E)をとりつけます



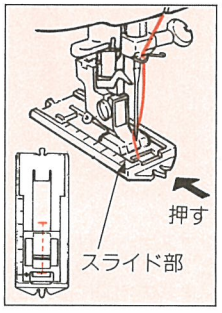
2 ぬい目の長さを合わせます



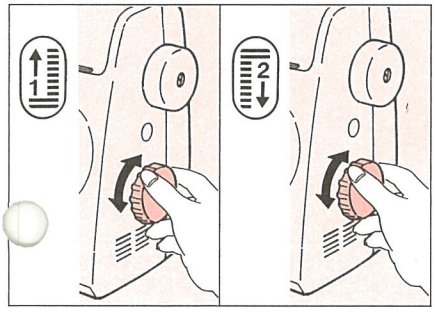
3 ボタン径を測り布地に印をつけます



4 スライド部を押して布地の印に合わせます



5 ボタン穴かがり模様を下記順序に選んでぬいます



左右のぬい目の長さが合わないときの調整方法

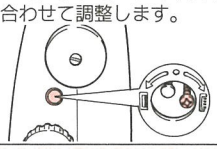
注意

ぬい目を調整するときは電源スイッチを切ってください。

1.調整するときは

の模様を選びます。

2.はずみ車の下の調整穴のキャップをはずして、ぬい目の状態に合わせて調整します。



右側が粗(あら)すぎるとき

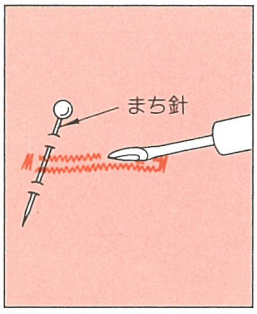
右側が細(こま)かすぎるとき

調整時のご注意

ぬい目を見ながら少しづつ(45°ぐらい)回して試しぬいをし、合せてください。回しすぎるとネジが外れたりトラブルの原因となりますのでご注意ください。

左側のぬい目を基準として右側のぬい目を調整します。

6 ぬい終ったらリッパーで穴をあけます



切りすぎないようまち針を使うと失敗しません。

ボタン穴かがりを失敗したとき

――失敗した場所により操作がちがいます――

をぬっている途中で失敗した場合

1.押えを上げて糸をほどきます。
2.模様選択ダイヤルでを選びます。
3.10針ぐらい空転させます。
4.模様選択ダイヤルでを選び最初からぬい直します。

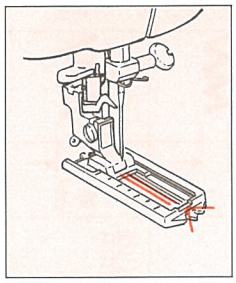
をぬっている途中で失敗した場合

1.押えを上げて糸をほどきます。
2.模様選択ダイヤルでを選び最初からぬい直します。

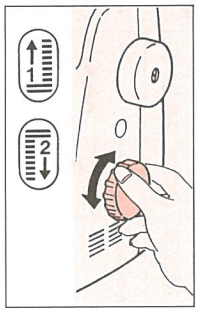
■芯入りボタン穴かがり

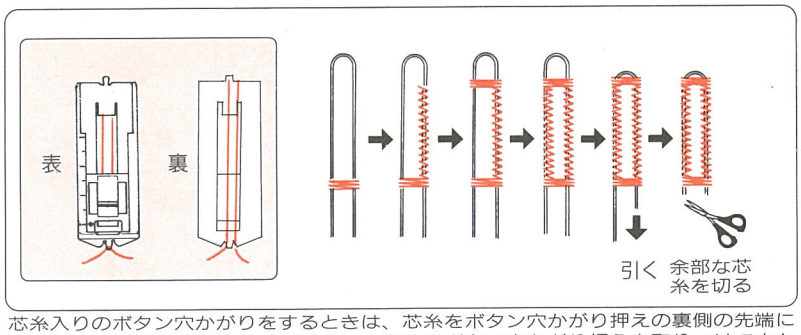
1 の順に模様を選びます。

注意 押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。



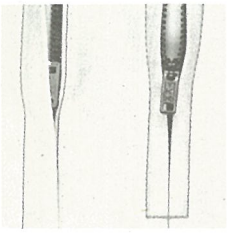
芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。





芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

■ファスナーつけ

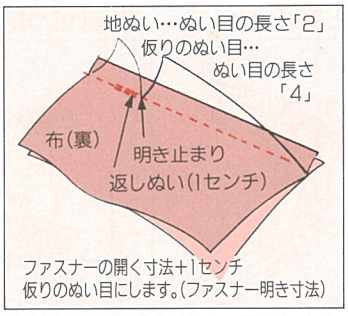


ファスナーつけは一般的に脇明きファスナーつけとつき合わせファスナーつけがあります。

1 左基線の直線を選びます

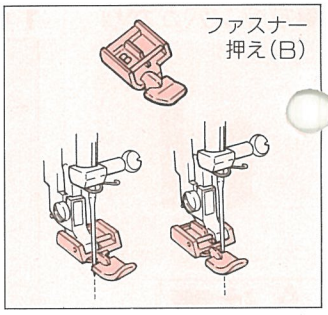
中基線はファスナー押えに針が当りますので必ず左基線を選んでください。

2 基本押え(A)を使い地ぬいと仮りのぬいをします



布地を中表に合わせて、地ぬいととりつけるファスナーの寸法を確かめて仮りぬいをします。

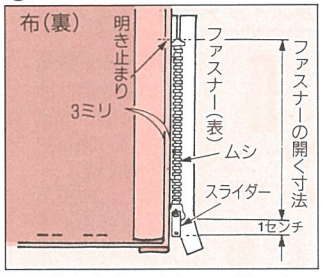
3 ファスナー押え(B)をセットします



ファスナーの右側をぬうときは押えの左にセットします。左側をぬうときは押えの右にセットします。

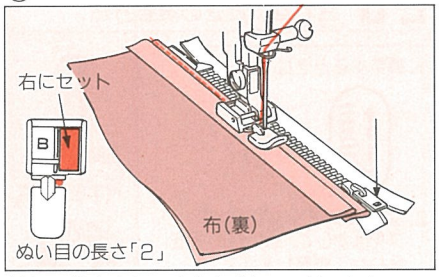
脇明きファスナーつけ

① ぬい代をわります



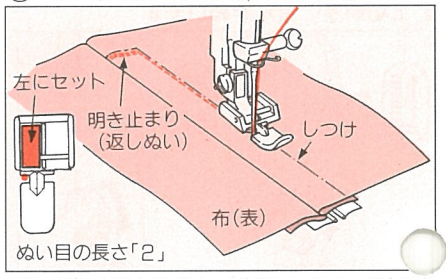
ぬい代をきちんとわり、後ろ布のぬい代を3ミリ出して、アイロンで折り目をつけ折り山をムシのきわにあてます。

② ファスナーの下方から上方にぬいつけます



押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダーのところは手前5センチ位でミシンを止め、スライダーを押えの向こう側へさげて端までぬいつけます。

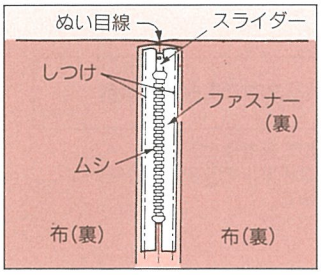
③ 上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます



スライダーを引きあげて、上布をファスナーの上にかぶせてしつけをします。明き止まりに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダーのところは仮のぬい目をほどいてスライダーをさげ、残りをぬいます。

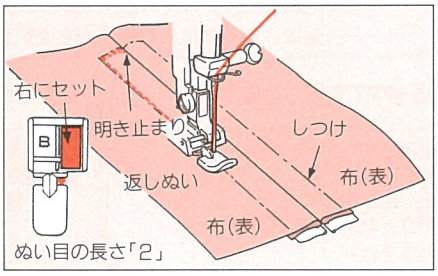
つき合わせファスナーつけ

① ファスナーをしつけます

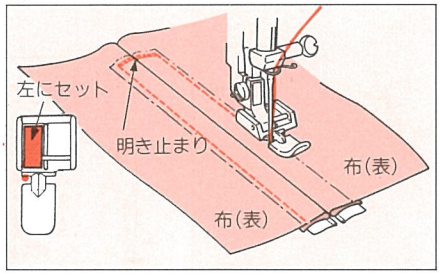


ぬい代をわり、ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

② 左側を明き止まりからぬいます

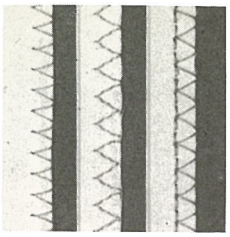


③ 右側をぬいます

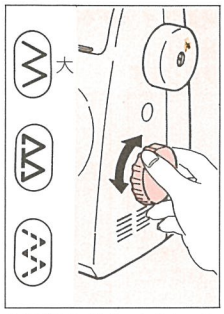


ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどきます。

■裁ち目かがり

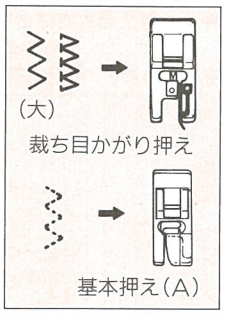


1 模様を選びます



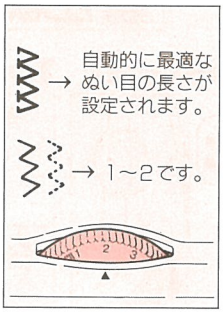
3種類のうち お好みの模様を合わせます。

2 押えをかえます

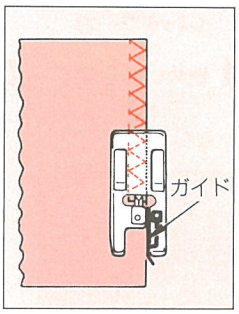


※三点ジグザグぬいは必ず基本押え(A)をお使いください。

3 ぬい目の長さを決ます



4 裁ち目かがり押え(C)を使う場合



布端をガイドにあててぬいます。

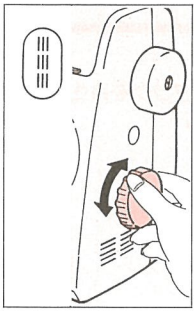
⚠注意

押えを交換するときは必ず電源スイッチを切ってください。

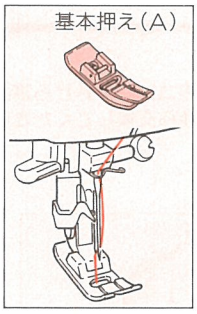
■伸縮強化ぬい
(ストレッチステッチ)

伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすいなどに使うとぬい目がしっかりします。

1 模様を選びます



2 押えをかえます



3 ぬい目の長さは自動的に決まります

この模様はぬい目の長さ調節ダイヤルの目盛がどこの位置にあっても自動的に最適なぬい目になります。

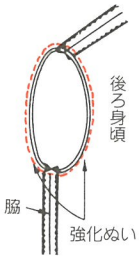
⚠注意

押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

■使用例

●袖つけ

後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところにあります。



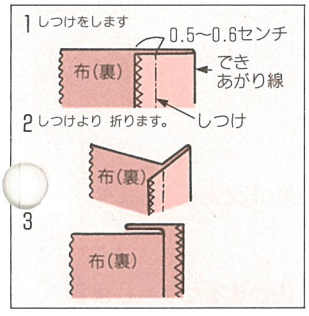
●よく使用するポケットつけ

●袋もののとってつけ

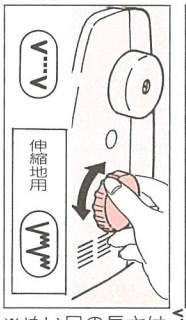
■まつりぬい
(ブラインド ステッチ)

⚠注意 押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

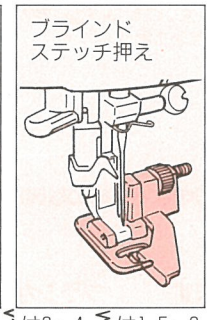
1 裁ち目かがりをして布地を折ります



2 模様を選びます

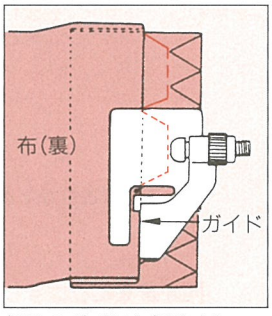


3 押えをかえます



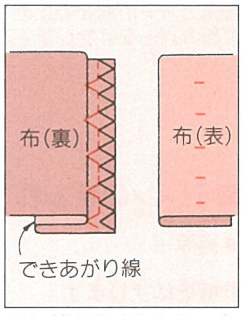
※ぬい目の長さは は2～4、 は1.5～3。

4 押えのガイドにあててぬいます



押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

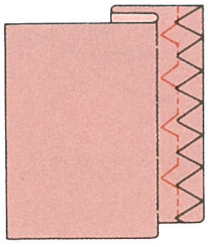
5 布地を折りかえします

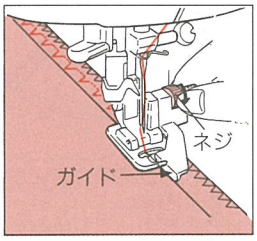


ぬい終わりましたら、布地を折りかえしアイロンでととのえます。

●ブラインド ステッチ押えのガイド調節方法

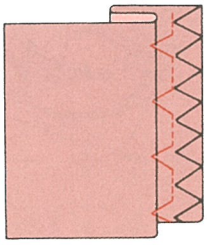
●折り山にぬい目がかからない場合

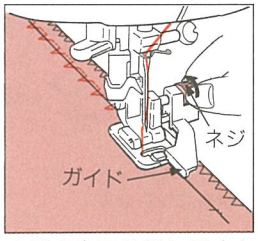




ネジを手前に回すとガイドが右へずれます。

●折り山にぬい目がかかりすぎた場合



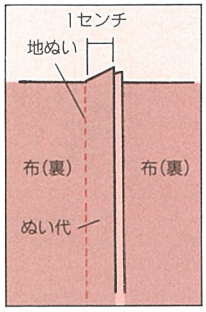


ネジを向こう側に回すとガイドは左へずれます。

■突き合わせぬい
（パッチワーク）

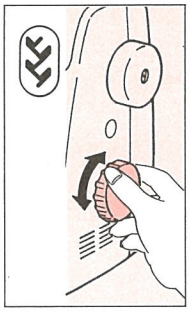
注意 押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 地ぬいをします

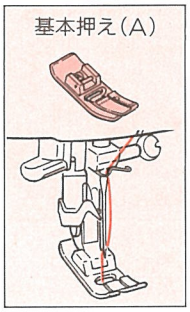


2枚の布地に地ぬいをします。

2 模様を選びます

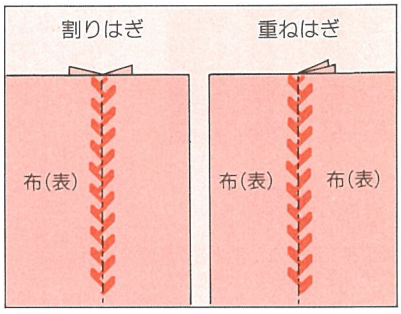


3 押えを確かめます



4 ぬい目の長さは自動的に決まります

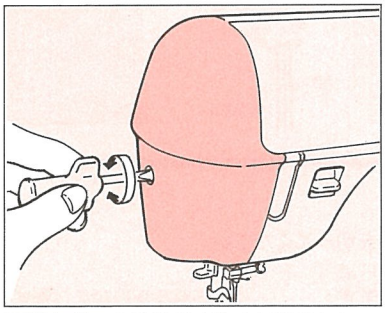
この模様は
ぬい目の長さ調節ダイヤルの目盛りがどこの位置にあっても自動的に最適なぬい目になります。



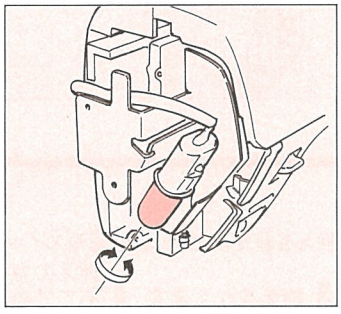
両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

注意
- ランプの交換や掃除するときは必ず室内コンセントから電源プラグを抜き、電源を切ってください。
- ランプが熱いときは冷えるまで待ってから交換してください。

■ランプの交換（面部カバーのとりはずし方）



面部カバーの前面の止めネジをまわし、面部カバーをはずします。



ランプをまわして、とりはずし、新しいランプをとりつけます。

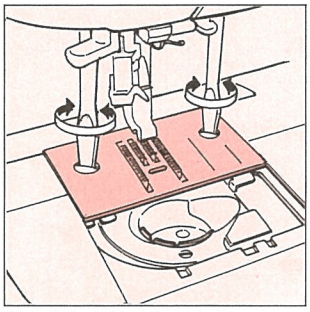
- ランプの消費電力は15Wです。
- ランプのお買い求めは、このミシンをお買上げいただきました販売店でお求めください。

■ミシンの手入れ

糸くずやほこりがたまりますと故障の原因となります。常にきれいにしておきましょう。

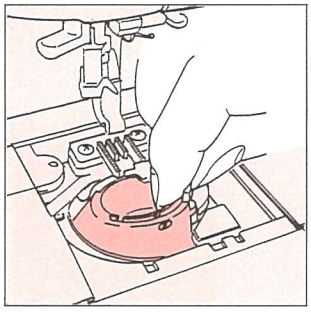
- 掃除

針板をはずします

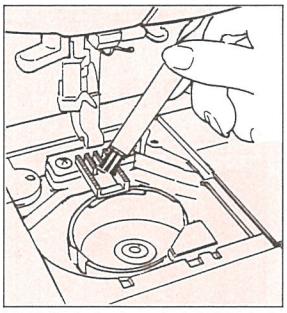


針や押えをはずしてから針板をはずします。

内かまをとりはずします

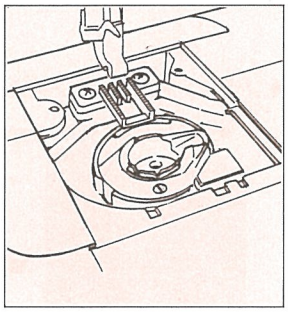


ブラシなどを使います



送り歯とかまの中と周辺をきれいにします。
たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれいになります。

内かまをセットします

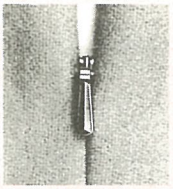


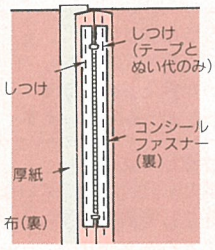
■別売品のご紹介

⚠注意 押えの交換や送り歯カバー取りつけのときは電源スイッチを切ってください。

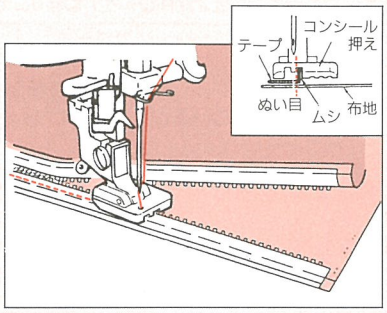
●コンシール押え

使う模様

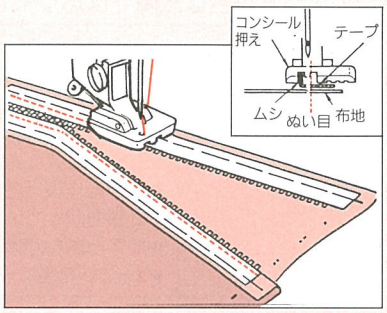




ファスナーのぬい目が布地の表に出ないので、つき合わせの状態であきの始末ができます。



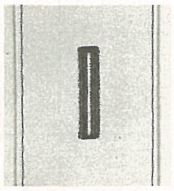
一方のぬいしろをファスナーのムシを押えのみぞに合わせ、指でムシを立てるようにして、ムシのきわにあき止まりよりミシンをかけます。



もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分はぬいしろにぬいつけられずに残ります。)

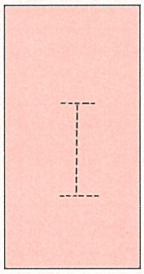
●手動BH押え

使う模様



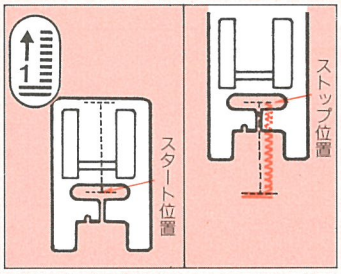
厚地の短冊あきや台衿の段部の穴かがりをする場合に用います。

ボタン径を測り布地に印をつけます。



の模様を選びます。

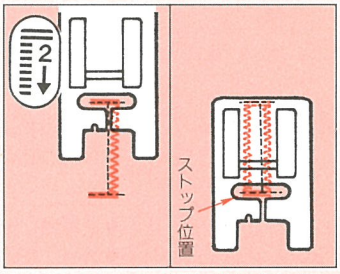
印の最後でストップさせます。



布地の印に合せてスタートさせます。

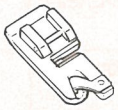
の模様を選びスタートさせます。

最初の位置に戻ったらストップさせます。

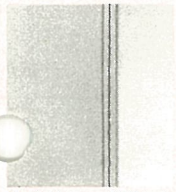


返しぬいをして終了です。

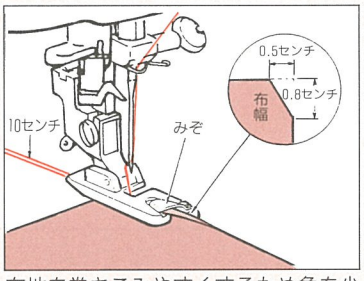
●三ツ巻き押え



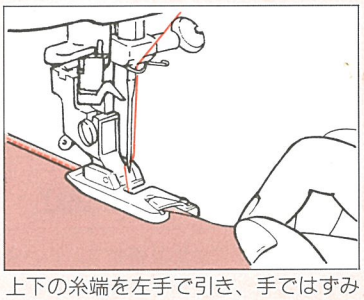
使う模様



布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

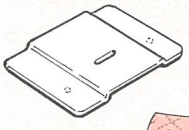


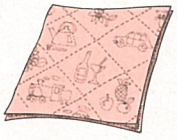
布地を巻きこみやすくするため角を少し切り、押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから針をおろして押えをさげます。



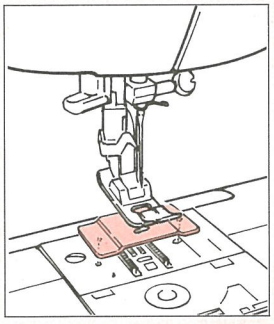
上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3～4回まわし、正しく巻きこまれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬいます。

●送り歯カバー

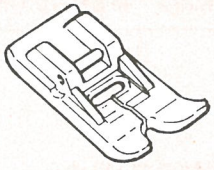




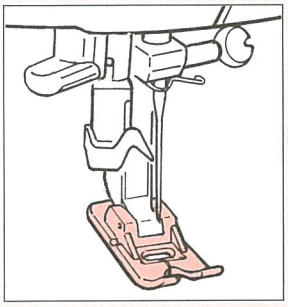
キルト芯を入れてオリジナルキルトやフリー刺しゅうに用います。



●テフロン押え



テフロンはすべりが良いため送りにくい素材（ジャージー、ビニールクロス、皮など）に適します。また、模様ステッチには模様くずれがなく、きれいに仕上ります。



■故障かな…というときは

下記のような場合は故障ではありません。サービスをお申しつける前にもう一度お確かめください。

現　　象	原　　因（理由）	処　置　方　法	ページ
布が送らない	●ミシンが空転しているとき ●送り（ぬい目の長さ）が「0」になっているとき	●糸巻軸を左へもどします ●送り「1～4」に合わせます	5 8
針が折れる	●針のとりつけ方が間違っているとき ●針が曲がっているとき ●押えと選んだ模様が合わないとき ●針・糸・布地の関係が悪いとき	●正しくとりつけます ●新しい針にとりかえます ●模様に合った押えを使います ●布地に合った針・糸を使います	7 7 7 8
上糸が切れる	●糸のかけ方が間違っているとき ●糸が必要以外の所へからんでいるとき ●上糸の調子が強すぎるとき ●針が曲がっているとき	●正しくかけ直します ●糸立棒、糸案内などにからまっていないか調べます ●上糸調子を正しく直します ●新しい針にとりかえます	6 — 8 7
下糸が切れる ぬい目がとぶ	●針のつけ方が間違っているとき ●針が曲がっているとき ●糸のかけ方が間違っているとき	●正しくとりつけます ●新しい針にとりかえます ●正しくかけ直します	7 7 6
回転が重く、音が高い	●かまに糸くずがたまっているとき	●かまを掃除します	13
ぬいじわが出る	●糸調子が強すぎるとき ●布地と針と糸が合っていないとき	●糸調子を合わせます ●正しく合わせます	8 8
スタートさせても ミシンが回らない	●糸巻軸が糸巻状態になっている ●針をかまの中に落としたままになっている	●糸巻軸を左側へもどします ●針をとりのぞきます	5 —
糸通しができない	●針が上にあがっていないとき ●針がとりつけるとき奥まで突き当たっていないとき ●糸通しレバーをさげたまま（糸通し中）誤ってミシンを回してしまったとき	●はずみ車を回して、針を最上点にあげます ●針を正しくとりつけます ●はずみ車を手でわずか向こう側（ぬうときと反対）に回します	6 7 —
模様ダイヤルが回らない場合		●押え上げレバーを上げ、はずみ車を手前に2～3回 回してください	—

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
- 保証期間中でも有料になることもありますので、ご了承ください。（保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。）
- 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
  当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

JUKI 株式会社
〒182　東京都調布市国領町8-2-1
☎　03-3480-7112

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、
下記、営業所へお問い合わせください。

北海道特販営業所……〒060　札幌市中央区南五条東3-14-5　☎011(512)6895
東北特販営業所……〒980　仙台市青葉区錦町1-1-2　☎022(261)7081
東京特販営業所……〒136　東京都江東区亀戸1-32-8　☎03(5626)2371
大阪特販営業所……〒530　大阪市北区曽根崎新地2-6-21　☎ 06(348)1351
広島特販営業所……〒730　広島市中区富士見町4-22　☎082(246)7711
九州特販営業所……〒812　福岡市博多区博多駅東1-9-5　☎092(474)4947
JUKI中部販売(株)……〒452　愛知県西春日井郡春日町大字落合字宮重町521　☎052(400)1234

087 000196(S)